

小林光・発言

未来の望ましい世田谷を作っていくための政策について（1）

○基本計画の目指すもの＝何のための魅力か

・基本計画の目指すものは何か、よく考えてほしい。安全は当然だが、「一層魅力的なまち」をつくることは何を意味するのか？例えば、たまたま世田谷に住むことになった人の住み心地の向上でよいのか？良い条件を提供できる世田谷に多くの人に来てくれることか？他の自治体でも参考になる良い見本を作ることか？何のための魅力か？

○バウンダリー

・他方で、世田谷に住んでいない人には何の顧慮も払わなくてよいのか？国内の他の地域があつての、あるいは海外の様々な国があつての、世田谷ではないのか？

・顧慮するのは、世田谷区民、世田谷区民でない国民や外人だけでよいとは思えない。国土の自然資本・生態系や地球の自然資本・生態系に依存し、生かされている世田谷がこれらに対してどんな役割を果たすことができるかを考えなくてよいのか？

⇒住民便益の極大化計画を作るのではなく、区に住む人々はもちろん、国内外の人々、国内外のモノ言わぬ自然の繁栄にも貢献できるような暮らしの場を具体化するのが区や区民の使命ではないか。

未来の望ましい世田谷を作っていくための政策について（2）

○政策にはいろいろなレベルがあるが、基本計画でないと書けない政策を

・分野別の政策の上澄みをステイプラーで綴じた計画では意味がない。例えば、福祉と予算制約の葛藤、教育と防災との競合などの難問に答えるのが基本計画の役割ではないか？

⇒例えば、水害など備えられる災害で死ぬ人ゼロ、地震のように突発的に起きる災害においても延焼などで死ぬ人ゼロ、日常生活に必要な栄養の取れない児童のゼロなどの最優先の基礎的な目標を定めるほか、次に優先されるべき目標（KPI）を決めておくなど、様々な政策が奉仕すべき諸目標とその重さなどは、基本計画でしか決められないのではないか？

⇒各分野の個別政策の区長予算査定などに際しては、その分野の目標への貢献度を問うだけでなく、基本計画で定めた諸目標の達成や非達成に対する影響をアセスメントする仕組みを設けたらどうか？案外、トレード・オンもあって、総合的に見て費用対便益の高い予算配分ができるのではないか。

⇒政策という「お薬」の処方は今すぐできない。その前に、「症状」についての「診断」は、区民の共通認識としてしておくべきではないか？それも区の中の細分された地域で診断の共有がなされるのが望ましい。

○区民の取り組み、区の作るルールや事業、そしてそれらの協働

⇒区しかできない役割は、区民に義務を課するようなルール作り、そして、いざとなれば収用を掛けてでも行う公共事業。これらに取り組む場合の基本的態度、手続き方針は、基本計画に定めるべき。

⇒個々の区民・事業者に対し、義務付けがなくても、自助として自分の負担でもって公益実現をどこまで担うべきか、の基本的な方針も、基本計画の前提になる重要事項。基本計画策定段階での区民意見の取入れを積極的に行って、自助の哲学や範囲は基本計画の内容として定めておいたらどうか？

未来の望ましい世田谷を作っていくための政策について（3）

○前述した諸点を、例示として環境分野に落とし込んでみると、…

✓目的・目標・バウンダリー関係

- ・区の政策、区民の公益を目指した活動の背景としても目的としても、日本の自然・生態系の健全性の維持・向上へ、そして、地球の自然・生態系の健全性の維持・向上へ、役割を果たすことを明定する。
- ・区内の区民と環境との関係を、住宅都市の21世紀の見本となるようなものすることを目的に位置付ける。
- ・北沢地区といった地区レベルで、上述の見本になるために改めるべき問題点を文字化する。
- ・国内の他の自治体の環境保全、再エネ開発（＝持続可能な環境利用の具体化）等への貢献・連携も、区や区民の取り組みの目的の一つとして位置付ける。

✓計画に書き込む政策方針や基本計画固有の政策

- ・天変地異に起因する災害の人命等の被害の最小化を最優先課題とする。このための予算措置も最優遇することを宣言。
- ・それ以外の公益に関しても、SDGsやWellBeing指標に照らして、区の個々の縦割り施策の影響を、縦割り評価ではなく総合的に評価して、施策の採択等に係る意思決定を行う政策運営方針を明定する。
- ・再エネの活用、緑の導入、ゴミ捨て・リサイクルなどの、人と環境との関係を律する上で、積極的に条例、なかんずく規制を活用して、個人の自助努力を求める、世田谷ローカルルールを鍛え上げていく、との方針を明定。